



Solution Adventure

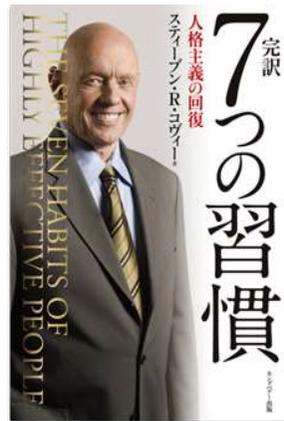
THE 7つの習慣
Habits of Highly Effective People

7つの習慣とは ～全世界160カ国で展開～

1989年にスティーブン・R・コヴィー博士により初版が刊行され、またたく間に世界中の人々や組織に影響を与え、変革をもたらしてきたビジネス書の金字塔、『7つの習慣』。

フランクリン・コヴィー社では、この『7つの習慣』をより深く理解し体得して頂くために、研修プログラムとして体系化し、提供しています。今や、米国フォーチュン100社の90%、グローバル・フォーチュン500社の75%に導入され、世界160カ国にて展開されています。日本国内においても、累計3,500社、20万人以上のビジネスパーソンが受講しています。

また、現在はビジネスの枠組みだけではなく、子供向けの授業、大学の講義など幅広い領域で展開されています。



7つの習慣 ～Solution Adventure ～

7つの習慣～Solution Adventure～は、お客様の課題解決ができる人材を育成するために、ヒューマン・アビリティ・デベロップメントとフランクリン・コヴィー・ジャパンとのコラボレーションで誕生しました。

私たちはパラダイムにより行動が決定付けられ、その行動が結果をもたらします。
仕事のプロフェッショナルに求められる顧客志向、未来を描くパラダイムを獲得するために必要な7つの習慣のエッセンスを通じて学んでいただきます。



7つの習慣の背骨となる考え方 パラダイムと See-Do-Getサイクル

【行動を変える前に、変えるべきものとは？】

結果を改善する時、私たちはまず行動ややり方を変えてみますが、私たちの行動は私たちのもつパラダイムによって決まります。7つの習慣では、参加者の皆様にパラダイムの特徴を理解して頂き、必要に応じ意識的にパラダイムを変える事の重要性をお伝えしています。

パラダイム =

「基本的なものの捕らえ方・考え方・判断基準」

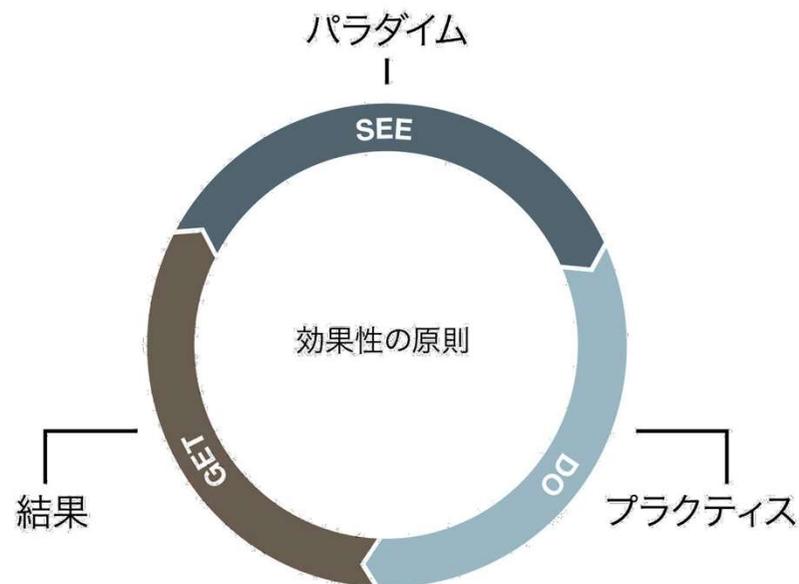
7つの習慣は個人のパラダイムといった根本的なものの見方を変える事によって、行動の変化を促すアプローチです。

そしてこれらのパラダイムや行動を原則に照らし合わせて働きかける時、私たちは新しい習慣を形成し、得ている結果を改善する事ができます。

原則 = 「効果性の基盤となる、自明の理、自然の法則」

パラダイムとは、長い時間をかけて自分の経験により独自に形成されます。

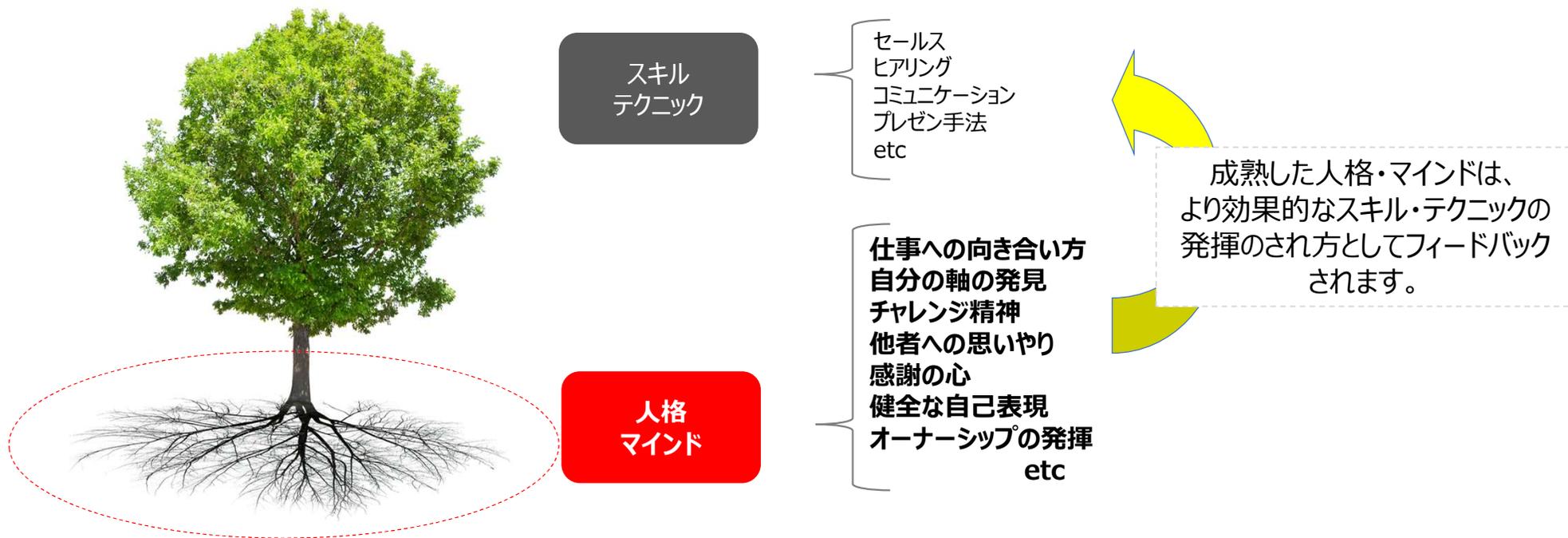
また過去の成功体験などにより固定化されてしまう事があります。激しい環境の変化や移り変わる顧客のニーズに対応するには、常に自分のパラダイムを見直さなければなりません。



7つの習慣 ～人格・マインドの醸成～

7つの習慣が効果をもたらす領域についてご紹介します

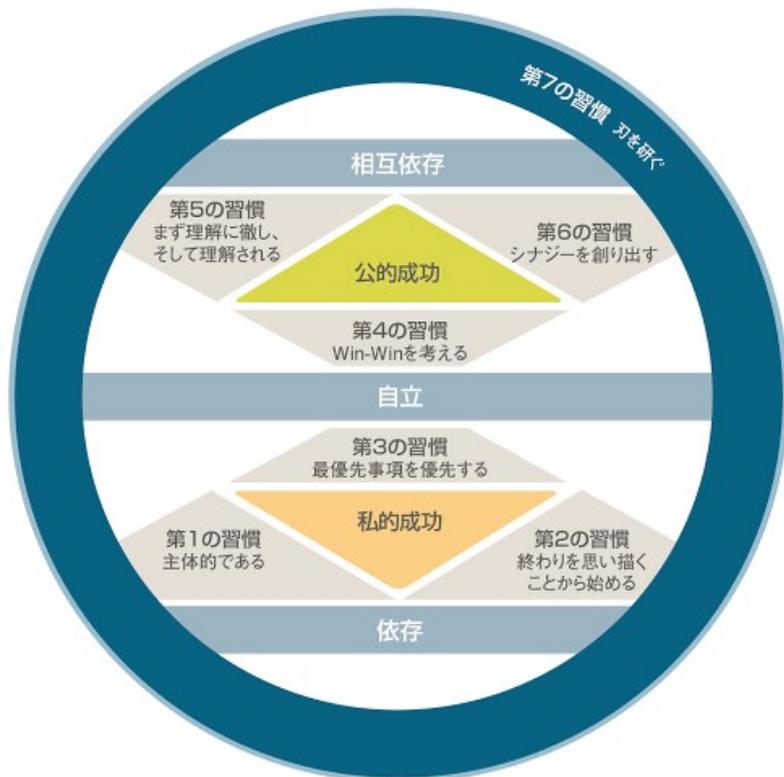
人物を木に例えた際、目に見える葉の部分(スキル・テクニック)と目には見えない根(人格・マインド)の部分に分けられます。しっかりと根を張った木は、強い風雨に見舞われても、環境の変化にも負けず、成長を続けることができます。



スキル・テクニックも勿論重要ですが、土台となる人格・マインド部分があって、初めて十分にスキルを活かすことが可能となります。
7つの習慣では、個人の根っことなる人格・マインドに変革を促します。

7つの習慣とは

長期的、継続的に得たい結果(個人・組織)を得続けるための7つの習慣



【成長の連続体】

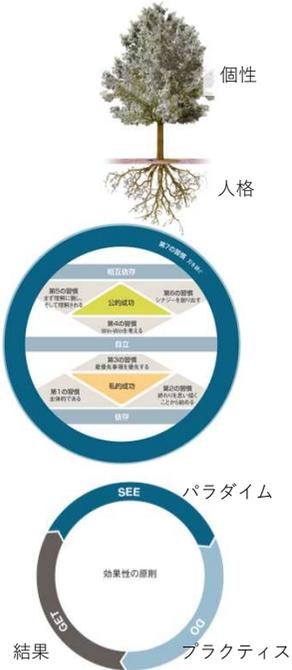
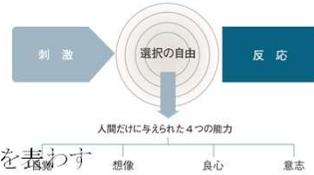
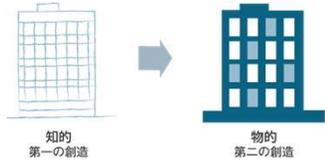
私たちが組織として、成果を出せるようになるために必要な成長の段階を【成長のプロセス】として捉えています。

「相互依存」状態：自立した者が集まり、協力して相乗効果を出す状態。
「私は○○をやり、あなたは○○をしましょう」

「自立」状態：自分で決断・方向性を決め、周囲に左右されない状態。
「私はこう思う」「私はこう行動する」

「依存」状態：自分の決断、方向性を全て相手や周囲に任せている状態。
「あなたが決めたとおりに、私は行動する」
「あなたが好きなことだから、私も好き」

プログラム概要 (流れ)

私的成功		
イントロダクション	第1の習慣	第2の習慣
パラダイムと効果性の原則	主体的である	終わりを描くことから始める
	自分が選択する	シナリオを書き直す
<p>リーダーとして、個人と組織の効果を高める (効果性:長期的、継続的に望む結果を得る)</p> <p>効果性を高めるには人格と能力の双方が必要</p> <p>依存-自立-相互依存の観点から自分の人格を見直し、成長する</p> <p>新しい習慣を身につけるために、パラダイムを変え、プラクティスを続ける 効果性の原則に基いてパラダイムを確認する</p> 	<p>依存から自立にいたる最初の習慣＝自分の在り方を考える</p> <p><u>反動的 vs. 主体的な行動</u> 主体的な人は感情や気分流されず、適切な反応を選ぶ</p>  <p><u>主体的な言葉</u> 自分の言葉がパラダイムを表わす</p> <p><u>影響の輪に集中する</u> 主体的な人は自分が影響、コントロールできることに集中する</p> <p><u>選択肢を広げる</u> 自分の思い込みや決めつけで制限せず、可能性を広げる</p> 	<p>主体的な人は他人の描いたシナリオの中にも自分の目的と意義を見出すことができる</p> <p><u>知的創造:</u> 終わりの姿を思い描く</p>  <p><u>個人のミッション・ステートメント</u> 自分の役割の本質的な目的と意義は何かを見出す</p>

プログラム概要 (流れ)

私的成功			公的成功
第3の習慣	私的成功から公的成功へ		第4の習慣
最優先事項を優先する	信頼残高		Win-Winを考える
重要軸に基いて計画する			創造的な発想
<p>自分でシナリオを書き直せる主体的な人は、緊急軸ではなく、重要軸に基いて行動計画を選択することができる</p> <p>時間管理のマトリックス: 第2領域にフォーカスすることで最大のリターンを得ることができる</p>  <p>大きな石をスケジュールする 週単位、日単位で、ビジョン/戦略/目標に最もインパクトを与える「大きな石」を選び、スケジュールに落としこむ</p> 	<p>行動により信頼を築く</p> <p>信頼残高: 預け入れ、引き出しの行動</p> 		<p>Win-Win: 双方の利益を確保しながら、将来もっと大きな利益を生み出すための創造的な発想</p> <p>豊かさマインドと欠乏マインド 自立して成熟した人格が土台になる</p> <p>勇気と思いやりのバランス 相手を思いやりながら、自分の考えと思いを伝える</p>  <p>自分のWinと同じように相手のWin Tチャートにより、自分のWinと相手のWinを整理する</p> 

プログラム概要 (流れ)

公的成功		
第5の習慣	第6の習慣	第7の習慣
まず理解に徹し、 そして理解される	シナジーを創り出す	刃を研ぐ
共感によるコミュニケーション	成果を最大化する	自分に打ち克つ
<p>部下・メンバーとの「対話」を成立するための共感によるコミュニケーション</p> <p>共感による傾聴 まず相手の理解に徹する</p> <p>明確化のための質問</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;">意図 理解しようとして聴く</div> <div style="font-size: 24px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;">スキル 気持ちと内容を反映させる</div> </div> <p>↓</p> <p>「メッセージ」 自分のことを理解してもらおう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff0e0;">意図 理解されるように話す</div> <div style="font-size: 24px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff0e0;">スキル "I" (私は) メッセージで 自分の考えを話す</div> </div>	<p>チームのパフォーマンスを最大化するため、メンバーとシナジーを創り出す</p> <p>シナジーのプロセス Win-Winの意図をもって、終わりの姿を思い描き、相互理解を通して、最上のアイデアを創り出す</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p>常に最良のコンディションに自分を保つ</p> <p>4つの側面で自分を磨く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知性 ・肉体 ・情緒 ・精神 <div style="text-align: center;"> </div>



企業文化を構築し、
社員の皆様の成長に
貢献して参ります。

株式会社 ヒューマン・アビリティ・デベロップメント